

平和は身近なところから

一宮市立中部中学校 三年 水藤 侑南

世界では今も戦争や紛争が続く、多くの人が

命を失ったり、住む場所を失ったりしている

。ニュースを見るにび、私は、なぜ戦争は

なくならないのだろうか、と考える。一方で、

私は毎日学校へ通い、友達と笑い合うことが

できている。そのような日常生活では

なく、平和だからこそ送ることもか
ける生活

なのだと改めて感じた。

私は以前、平和とは、戦争がないこと、だ

と思っていた。しかし、本当にそれだけで平

和と言えるのだろうか。平和について考える

うちに、それだけではいえ、と思えるように

した。相手を思いやることや、お互いを認め

合うことも平和を支える大切なことではない

だろうか。

私はインタビューで、誰かを傷つける言

葉や悪口を目にすることがある。そのよう

な言葉を見るたびに、とても悲しい気持ちに

しかし、その言葉を書いた人も悩みやストレスを抱え、心の余裕を失っていつのかわれぬ。思いもあらん、それは人を傷つけてよい理由にはならない。それでも、ただ相手を責めるだけではなく、なぜそのよう言葉を書いたしまったのか、にのびらうと考えることも大切なので、はいかと感じている。

私は人は心に余裕がなくなる、相手を感じやめることが難しくなってしまうことがあると思う。学校でも、疲れや嫌なことが重なると思わずきつい言葉を口にし、喧嘩にほることもあえる。もちろん、学校での喧嘩と戦争を同じに考えることはできない。しかし、相手を理解しようとする気持ちたちが矢なれると、争いが大きくなってしまうという点では共通しているのではないだろうか。

その一方で、私はスポーツの国際大会を見ていると、人は争うだけではいいと感じることがある。試合中は勝利を目指して戦っているけれども、試合が終われば互いの健闘をたた

え合う姿にスポーツマンシップを感じる。ま
に、多くの人が選手に声援を送る姿も見られ
る。同じ言葉でも、人を傷つけることも
あれば、励ましや勇気を与えられることもできる。
私は言葉には人と人をつなぐ力があるのだと
感じた。

だから私は、戦争のない平和な世界を実現
するためには、国同士の問題だけでなく、一
人一人が相手を思いやり、認め合うことが大
切だと思う。私自身も相手の立場を考え、話

し、誰かを傷つける言葉ではなく、人を励ま
し、勇気づける言葉を使える人になりたい。

世界中から戦争をなくすことは簡単ではな
い。しかし、平和は遠い国だけの問題ではな
く、私たちの日常とも深くつながっていると思
う。一人一人の思いやりのある言葉や行動
が、平和な社会を築く第一歩になるのではな
いだろうか。そして、そのよう小さな行動
の積み重ねが、いつか戦争のない平和な世界
につながると信じている。